学校番号	1006

令和８年度　総合福祉科

教科	総合福祉	科目	福祉実習	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

講義や実習を通して福祉について考え、福祉制度や障がい理解について理解するとともに、自分に何ができるかを考えます。近隣の福祉施設で体験ボランティアによる実習を行います。校外実習ができない場合は、校内実習においてコミュニケーションや介助の方法などを身につけるとともに、リクリエーション技術の向上をはかります。また、認知症サポーター・ガイドヘルパー(知的課程)資格取得のための学習も行います。

2　学習の到達目標

・福祉とは何かということを講義や実習を通して学習し、基礎的な知識・技術を身につける。
・高齢者や障がい者の介護についての知識や技術を学習し、今後の高齢者福祉に関して、どんな問題が潜んでいるかを複合的に考え、プレゼンなどを通して表現できる力を養う。
・年間を通じた現場実習を通して、介護士にとって必要な基礎的態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・知識を正しく理解し、身につけている。 ・必要な情報をタブレット端末等を活用して検索し、収集することができる。 ・実習先で必要とされる技能を身につけている。	・実習で学んだことを表現し、次の実習につなげることができる。 ・自分達の経験をほかのグループの人にも共有することができる。	・積極的に自分の役割を見出すことができる。 ・ペアまたはグループ内にて協調性をもって取り組むことができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学	単元	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	福祉を学ぼう	・オリエンテーション ・ハンディキャップ体験	a:福祉器具について、その構造や仕組みについて理解する。 b:体験を通して発見した気づきを表現するとともに、その理由について考えることができる。 c:主体的に体験活動に取り組む。	ワークシートの記述	ワークシートの記述	受講態度の観察 レポートの記述
	ガイドヘルパー養成講座	・障がい者（児）福祉制度と移動支援事業 ・障がい者の人権 ・知的障がいの心理 ・移動支援従業者の職業倫理 ・障がいの理解（知的障がい） ・移動介助の基礎知識 ・コミュニケーション実習 ・外出介助実習・演習	a:知的障がい者について理解し、支援に必要な知識と技能を身につけ、使うことができる。 b:支援者として何が求められているか、当事者の立場に立って考え、行動することができる。 c:外出介助実習に積極的に参加し、学んだ知識を活用して障がい当事者を介助することができる。	レポートの記述	受講中の発言 レポートの記述	受講態度の観察 レポートの記述
	障がい理解（知的障がい以外）	・障がいの種類 ・障がい特性について ・自分たちができること	a:自分で必要な情報を検索し、まとめることができる。 b:学習した内容をもとに、自分の意見やアイデア等を表現できる。 c:ひとつの課題に対し、ペアまたはグループにて協同学習を行い、主体的に活動へ取り組む。	成果物	成果物 発表内容	成果物 発表内容 受講態度の観察
2・3学期	施設実習	・施設の理解 ・実習の心得 ・施設実習 ・振り返り	a:施設について、実習内容、心得について理解する。実習で必要とされる技能を身につけている。 b: 支援者として何が求められているか、当事者の立場に立って考えることができる。 c: 積極的に実習に参加し、学んだ知識を活用して実習に取り組むことができる。	レポートの記述	受講中の発言 レポートの記述	受講態度の観察 レポートの記述
	レクリエーション	・レクリエーションの意義 ・レクリエーションの実際 ・レクリエーション実習	a:レクリエーションの意義を理解し、運営する知識と技能を身につける。 b: 学習した内容をもとに、レクリエーションを企画・立案する。 c: 主体的に活動へ取り組み、内容を振り返り、改善方法について考察することができる。	成果物	成果物 発表内容 実習内容の観察	成果物 発表内容 実習内容の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度